

招待席

創立100周年を迎えて

一般社団法人広島市歯科医師会 会長 川原 正 照



〈筆者紹介〉

昭和31年12月23日生 61歳 広島市出身

昭和60年3月 広島大学歯学部、平成元年3月 同大学院卒業(口腔外科学第一) 広島赤十字・原爆病院、広島大学助手などを経て、平成6年5月に中区幟町に「川原歯科医院」を開設。平成16年法人化。平成27年より現職。

大正7年に産声を上げた広島市歯科医師会は、今年2月11日に創立100周年の節目を迎えました。記録によりますと明治19(1886)年に富永省吾氏が広島県第1号の開業医として広島市で歯科医院を開業し、明治20年3月には医師の後藤静夫氏ら数人の発議によって貴会の原点となる「広島医会」が設立。歯科医師も加入させていただき、学術、医政に関する研鑽を始めたということです。明治30年には広島市の医師、歯科医師により「広島医学会」が設立されるなど、明治時代には医科、歯科の開業医が共に切磋琢磨して広島県民の医療に携わっていた様子が偲ばれます。この時代の歯科の研修会は“むし歯や歯周病”ではなく、“顎壊疽”や“三叉神経痛”、“口蓋裂”など口腔外科的なものについての関心が高かったようです。

大正5年に広島市に学校歯科検査医が設置されたのに伴い、小学生児童の口腔診査が開始されました。学校歯科健診の始まりです。昭和3年6月4日には「第1回ムシ歯予防デー」が開催されました。昼間は講演会や歯ブラシ教練を、夜間は活動写真会を市内小・中学校で8日間にわたって開催し“口腔衛生

思想”の普及宣伝活動を行いました。テレビはなくラジオでさえもやっと普及し始めたこの時代に、“活動写真”という手法を用い、宣伝カーで啓発活動を行っていた先達に頭が下がる思いです。

昭和20年8月6日の原子爆弾投下により貴会同様、我々も多くの尊い命と貴重な資料を失いました。「75年間草木も生えない」といわれた被爆焼土にいち早く咲き、原爆からの復興のシンボルとなり広島市の花に指定された夾竹桃。100周年を機に作成する会員バッジにこの花をデザインするつもりです。

幾多の苦難を乗り越え、我が国の戦後の復興と共に組織を整備し、市民・県民の口腔の健康を支える地域歯科医療に貢献してきました。

近年では、しっかり噛めればアルツハイマー型認知症に罹患しにくく、運動能力も向上する“8020運動”、誤嚥性肺炎のみならず、術後合併症の軽減や入院日数の短縮が期待できる“周術期口腔ケア”、歯周病を治療することにより、糖尿病や血管系疾患などの生活習慣病に及ぼす悪影響を回避できる点など、歯科医療が全身医療の質の向上に寄与するエビデンスが数多く報告されています。健康で快適な人生を送るためには、歯と口腔の健康が伴ってこそ、理想的な健康長寿を送ることが可能になると我々は考えています。

これからも医師会と歯科医師会が手を携えて、市民・県民の医療を支えていきましょう。どうぞよろしくお願いいたします。